

仲よしの友達



川本北小学校6年
鈴木 れん

わたしは、すごくうれしかったことや心に残ったことがたくさんあります。友達にやさしくされたこと、色々なことが心に残っています。最近、すごくうれしかったことはA子ちゃんにバトンを教えてもらったことです。口げんかなどをたくさんするけど、知らないうちに仲よしになってしまいました。A子ちゃんは、バトンがすごく上手です。一つ一ついいねいにして教えてくれます。わたしは、もう、わからない。いやだな。と思っていてA子ちゃんは、「あきらめちゃだめだよ。上手になってるじゃん。すごいよ。」と言ってはげましてくれました。わたしは、こんな友達がいてよかったなと思います。でも、そんなA子ちゃんとも、たまにはケンカをします。意見があわない時がたまにあります。一日や二日話さないということはないけど、少し時間が経つまで、一言も話しません。

このような時、わたしはすごく悲しくなります。でも、じゅ業が終わり休み時間にA子ちゃんの所へ行くと、「さつきはごめんね。」と小さく言ってくれます。わたしは、「わたしの方こそごめんね。」と言って仲なおりができるので。ずっといやな気持ちがあったままだったのに、いっ気に楽になりました。

「ケンカをするほど仲がいい」という言葉を知っていますか？わたしは、仲なおりで来た時に思うのです。確かにそうだ。仲なおりをして、また仲よしになると友情がぐっと深まる気がするのです。わたしは、ケンカはいけないことではないと思います。ケンカをしている時はいやだけれど、仲なおりをするとすっきりするからです。

わたしは、一年生からずっと友達のA子ちゃんと何回ケンカをして、何回遊んだでしょうか。わたしは、友達ってすごいと思います。自分を変えてくれて、知らないことをたくさん教えてくれます。わたしは、友達が一人でも、ぜったい必要だと思えます。なんでもわかち合える友達をみなさんもつくって下さい。これからもA子ちゃんや色々な人と仲よくしていきたいです。

夢

なかるべからず

親しみを描くアーティスト



なかじま 義明さん
中嶋 義明さん

世界初

「魚の頭をイメージするんです」

そう言うって電動ヤスリの金属音を響かせると、彼は経験と勘だけで一気になめらかな流線型を削りとった。辺りには、こだわり尽くされた数々の艶やかな

竹とんぼが、工芸品のような輝きと温もりを放っている。世界初 プーメラン竹とんぼの製作者 中嶋義明。

彼は、建設会社を経営する傍ら、竹とんぼの魅力を伝え続けている。投げ手に戻ってくる魔法のような竹とんぼに、今、驚嘆と懐古の視線が注がれている。

Book

ふかや必読書30



『世界がもし100人の村だったら』池田 香代子
「いま世界には約63億人の人間がいます。それを100人の村に縮めたらどうなるでしょう。」の問い掛けから始まるこの本。あなたの「世界を見る目」を開いてくれるでしょう。

感想 みんなの 花園中学校2年 内田 継乃さん

この世界を100人の村にたとえると、75人は自然災害の危険にさらされています。この本には、今人間が抱えている厳しい現実について分かりやすく、そしてゾッとするほど恐ろしく書かれています。私は自分がどれほど幸せかということを実感しました。同時に、戦争、貧困、病気などでどれほど多くの人が苦しんでいるのかがわかりました。人種や国籍を越えて人々が手を取り合い、みんなが安心して暮らせる世の中について考えなければならぬと、考えさせられる1冊でした。

Letter

ありがとうの手紙



優秀賞 中学生の部



女子バレー部の顧問の先生へ

幡羅中学校3年

八須 美加乃さん

二年半という短い間に私をこんなに強くしてくれてありがとうございました。こんな私を部長として育ててもらい、いろんな事で涙してどうしようもない私を見捨てずに、体力的にも精神的にも強い人間に育ててくれて、本当に感謝しています。

特に心に残った言葉は、「背が小さくても、お前にはお前のやり方がある。もっと強くなれ。」と言われた事です。今思えば、この言葉で自分は変わったんだなと思います。

本当に本当に今までありがとうございました。

壁・出会い

漫画 画家に憧れていた。小さいころは、授業中漫画を描いて、よく先生に小突かれた。上野台で建設業を営む実家は、大好きなおもちゃ工場だったが、一方、足枷でもあった。家を継ぐのが嫌というわけではない、ただ可能性を求めて、進路は美術大学へ向けた。自作の漫画を投稿する日々。



寄木細工の技術を応用した新作

しかし、壁は高かった。実家を継ぐと、現場で汗を流す日々、いつしかやりがいを感じるようになっていた。そんな折、モンゴルの子ども達へ竹とんぼをプレゼントする機会があった。出来合いのものだったが、取り合いになるほど喜ぶその姿に、一つの思いが過った。「自分が作ればもっと良いものがプレゼントできる」

人の和

帰国後、早速製作にとりかかった。建設業で得た経験を映し込んだ渾身の竹とんぼ。それは、綺麗な放物線を描くと、次の瞬間軌道を反転し、彼の手の中に吸い込まれるように舞い戻った。「これは面白いものになる」中嶋の心に再び火がついた。

今では、講師にイベントにと忙しい中嶋は、竹とんぼが与えてくれた一番大きなものは「出会い」だと言う。1つの出会いが自分をまだ見ぬ世界に連れて行く。最近、映画などの口々に携わることも多くなった。「親と子が一緒に作って、一緒に遊ぶ。絆を深めるきっかけになればうれしい」中嶋の竹とんぼが描いた輪は、人の和となって人々を繋ぐ。

夢七訓

夢なき者は理想なし
理想なき者は信念なし
信念なき者は計画なし
計画なき者は実行なし
実行なき者は成果なし
成果なき者は幸福なし
ゆえに 幸福を求める者は夢なかるべからず※

(本文中の敬称は本人の承諾を得て省略しています)

※「夢なかるべからず」は「夢を持たないといけません」という意味。